

**MORIOKA CHUO HIGH SCHOOL**  
The Transaction of PTA

**Vol.57**

令和4年12月14日  
盛岡中央高等学校  
PTA会長 山本 里美  
在校生生徒数927名  
〒020-0122  
盛岡市みたけ四丁目26番1号  
電話019-641-0458  
URL <http://www.chuo-hs.jp>

## 第23回CHUO国際教育フォーラム



フォーラム実行委員長  
山口 美輝(SONI)

今年度は「Think globally and act locally - Transforming our world using the SDGs-」というテーマのもと、「気候変動対策」「海の豊かさ」「陸の豊かさ」の三つの観点から発表しました。今年度は9つの国と地域、計11校の学生とともに、3年ぶりにマリオスで開催することができました。参加した学生は、今直面している様々な課題に対して、どのような解決方法があるのか、これからどう行動すべきなのかを考える良い機会となりました。

近年では、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックをはじめ、ウクライナでの戦争によって経済格差、貧困拡大、環境汚染などが引き起こされており、2030年までのSDGs 17の目標は予想を覆

し、大きく遠退いています。したがって私たち一人ひとりがより持続可能な未来を築くためにこれから何ができるのかをよりいっそう考えるべき時です。

今回参加した姉妹校の学生と中央生が、互いの地域や文化に基づきユニークな発想を受けて、より良い未来にしていきたいために行動していきたいと思っております。

第23回CHUO国際フォーラムが8月31日にマリオスで行われました。一昨年は中止、昨年は実行委員のみが参加し、校内でのZoom開催でした。今年度は3年ぶりにマリオスで開催することができました。

コロナ禍の影響で規模は縮小し、海外姉妹校生徒の来県は叶いませんでしたが、それでも9つの国と地域から10校の姉妹校がオンラインで参加してくれました。全ての関係者のご尽力にこの場を借りて感謝申し上げます。

現3年生は、フォーラムを経験したことがあり

ません。開催に際し、戸惑うことも多かったとは思いますが、プレゼンテーションをした生徒をはじめ、司会者、舞台担当、タイムキーパー、オンラインのスイッチャー、和訳・英訳担当、前日の準備や当日の来賓対応、チアダンス部・さんさ同好会の生徒、全員が一生涯命取り組んでくれたおかげで、無事フォーラムを終えることができました。

コロナが収束に向かいつつある中、来年は姉妹校生徒が盛岡に来ることが期待されます。今年以上に学校・生徒・保護者が一体となった素晴らしいフォーラムになることを願っています。

(国際課長/中嶋尚樹)



### 快挙に感謝

校長 千葉 研二

保護者の皆様には、日ごろより本校の教育活動にご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

十月末時点での全国のコロナ感染状況は第八波かともいわれておりますが、本校の生徒・教職員は若千名の感染に留まっております。このまま終息することを願うばかりです。

さて、六月審査終了後の六月二十三日、二十四日に体育大会を開催することができました。それぞれのクラスTシャツを身にまとい閉塞感を打ち破るべく大いに青春のエネルギーを発揮していました。

七月九日には昇龍祭を開催、特にも昇龍祭委員の皆様のご活躍で「ババヘライス」等すべて完売し、売上金をご寄付いただきました。改めて感謝申し上げます。三年生にとっては、高校生活最後の大会となりました。高校の名を世に轟かせてくれました。そして、夏の高校野球、見事花巻東高校を破っての決勝進出、残念ながら甲子園出場の悲願は果たせませんでした。エースの齋藤響介君が日本一のオリックスバファローズから三位指名という快挙を成し遂げました。小林陵侖君の金メダルに続くもので大変うれしく思います。大変高い評価と期待を頂いたことをご報告いたします。今後の活躍を皆様とともに見守っていききたいと思います。

CHUO国際フォーラムは八月三十一日、三年ぶりのマリオスでの開催、海外姉妹校十校の参加を得て、オンラインで実施いたしました。大変素晴らしいとお褒めの言葉を各方面からいただいております。

当日の様子は是非HPでご覧ください。来年は、龍澤学館創立七十周年、盛岡中央高校創立六十周年の記念の年となります。令和五年九月一日、マリオスにてCHUO国際フォーラムに併せて記念式典、ニューウイングで祝賀会を開催する予定です。詳細は後日ご報告しますが、PTA会員の皆様にもご協力・ご支援をお願いする次第です。

高校三年生は卒業後の進路に向けて最も大切な時期となります。一人ひとりに「合格おめでとう」と言わせて欲しいと願っております。

# 野球部、夏の岩手県大会準優勝

野球部は3年生22名、2年生21名、1年生32名の合計75名で活動しております。

夏の選手権予選では14年ぶりに決勝に進出しましたが、決勝では一関学院高校を相手に2-3と惜しくも敗れ、23年ぶりの甲子園出場とはならず準優勝という悔しい結果で終え



て参りました。PTAの皆さま、在校生の皆さんには降雨の中、猛暑の中球場に駆けつけご声援いただきました。ありがとうございます。

本校野球部の監督に奥玉真大氏が就任して4年となります。奥玉監督は「PL学園高校野球部」の出身で大学、

社会人野球でもプ

レーされ、現役引退後の富士大学硬式野球部コーチ・助監督時代には、山川穂高選手(西武ライオンズ)外崎修汰選手(西武ライオンズ)などを指導され、多くのプロ野球選手を輩出されたことでも知られています。

今年の3年生は、「岩手の高校野球の歴史を変えたい」、「盛岡中央高校で甲子園に行きたい」との志しを持ち、奥玉野球の門、盛岡中央高校野球部の門を叩いてくれました。しかし、高い目標と志しに水を差したのは「新型コロナウイルス」という見えない敵でした。活動の制限や自粛を余儀なくされ、何にも気兼ねすることなく一心不乱に白球を追うこと

を思い描いた高校野球生活とは程遠いものであったと思います。そうした状況下でも2年次の選手権予選では、甲子園出場を果たした盛岡大学附属高校に敗れましたが、卒業した先輩らとともに10年ぶりのベスト8に進出するという結果を残してくれました。

向かえる新チーム。自らに対する

少しの自信と期待を持ちながらも、それが本物なのかわからない、確信は得られていない手探りの中で、春の選抜甲子園の出場に向けた秋季県大会に臨む時、われわれの前に立ちはだかっただけなのは、またも「新型コロナウイルス」でした。初戦の試合前シートノックを終えると試合会場の花巻球場は突然の雷雨。試合は中止になり帰校して、間もなく告げられたのが「出場辞退」でした。限りある高校野球の時間の限りある甲子園への挑戦の機会を見えない敵である「新型コロナウイルス」にまざまざと奪われていく。辛く、悲しく、むなしく、でも当たり所もない、まさに筆舌に尽くしがたいなんとも言えない状況でした。しかし、そんな状況においても選手達は決して後ろ向きな言葉を発せず、主将を中心に日常や多くの支えに改めて感謝の心を向け、練習に励んでおりました。こうした選手達のたくましい姿に触れ、野球道を通じて着実に人間力が養われていくと感慨深く思うと同時に、困難な状況を受け入れそれでも前を向き、新たな目標に向かって自身を高める努力を惜しまない選手達の姿には心打たれました。

長い冬の厳しい環境下での練習から3年生の春を迎え、いよいよ最後の甲子園に向けたシーズンの幕開けもまた「新型コロナウイルス」の影響を受けました。春季キャンプは中止となり、冬季の活動環境でキャッチボール・打撃練習・守備練習などを十分に行うことがなかったままに、春季大会に臨まなければなりません。春季地区予選から春季県大会までは1週間ほどの時間はありましたが練習試合も十分に積むことができず、結果は昨秋の県準優勝校である久慈東高校に1-9のスコアでの敗戦。自分たちを見失いかけてしまう。大変つらい敗戦でした。しかし、そこでも心折れることなく、最後の夏の大会へ向けて前を向くことができたのは、奥玉野球を信じる気持ち、仲間を信じる気持ち、自分自身を信じる気持ち、自分たちがやってきたことを信じる気持ちがあったからではないかと思えます。

第104回全国高等学校野球選手権岩手県大会は52年の歴史に幕を閉じる岩手県営野球場での最後の夏の大会として行われました。8日間で5試合を行わなければならない過密日程の中、江南義塾盛岡高校との初戦、プロ注目の最速143km/h右腕を擁し昨秋ベスト4の花巻南高校、好投手を要し強打の盛岡市立高校、第4シード校の盛岡第三高校、昨秋の神宮大会ベスト4(全国ベスト4)で第1シード校の花巻東高校を撃破し決勝戦にコマを進めました。公式戦の経験が少ない本校でしたが、手ごわい強敵とばかりと試合を重ねること自信を深め、大会の中でどんどん強くなっていきました。

投手を努め、メンバーはそれに感謝の気持ちを持ってバットを振り、日替わりでヒーローが変わる。こうした、盛岡中央高校野球部75名での全員野球を可能にさせたのは自分たち盛岡中央高校野球部というチームを信じる気持ちであったと思います。主将の菊池快が大会における取材のなかで事あるごとに、「自分たちは自分たちの野球をやるだけ」「盛岡中央の野球をやれば勝てる」と話していました。自分たちの日々の練習を、3年間を、最後の最後まで信じきるものにまで高められたことが準優勝という結果につながったのではないのでしょうか。結果としては非常に悔しい結果ではありましたが、勝ち負け以上の、盛岡中央高校野球部の在り方を岩手のみならず、全国に示してくれた素晴らしい戦いさまであったと思います。

コンクールを控えながらも野球応援に時間を割いてくれた吹奏楽部、日差し厳しいなか応援してくれたチアダンス部・応援団、野球場近隣の住民をはじめとする地域の方、保護者の方、準決勝・決勝に駆けつけてくれた在校生諸君、多くの方々からいただいたご声援も選手の方々に力になりました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。

1・2年生は3年生が見せてくれた甲子園までと一歩の景色と、岩手県で一つの学校しか味わうことができない特別な悔しさをもとに、岩手県制覇と日本一のチームを目指して活動しております。我々指導者も野球を通じて世のため人のためになる人材を育成するため、選手とともに一層励んで参る所存ですので、今後とも変わらぬご声援をお願いいたします。(野球部長/本間宗明)

硬式野球部主将

菊池 快(3A1R)

私達硬式野球部の新チームは悔しい思いでいっぱいでした。秋の県大会では突然の出場辞退や練習ができず悔しさが残りました。何もすることができず家でできることをしました。秋の大会に出れなかった悔しさを春の県大会につづけるといって練習しました。しかし春の県大会では初戦敗退。コールド負けでした。周りからは「投手だけのチーム」「夏は勝てるわけない」と言われ悔しいという言葉しかできませんでした。夏で勝てるのか自分達も不安でした。ですが後ろを振り返る暇はなかったので残りの日数でできることをしようと声をかけチームの決め事である「5項目の徹底」を全力で行いました。そして迎えた最後の夏の大会が始まりました。3回戦までは投手・打撃ともに自分達のやりたい野球をすることができベスト8まで進むことができました。ベスト4をかけた盛岡三高戦では私のエラーから4失点をしてとても苦しい試合でした。私達の代になってから盛岡三高に勝てたことがなく私自身も負けるかもしれないと思っていました。ですが少しずつ点数を返し、最後はホームランで逆転勝ちすることができました。準決勝は花巻東戦で観客もとても多かったです。5回が終わり同点で体も心も疲れそうになりましたがみんなは「俺たちの方が強いから絶対

に勝てる」と言い、その言葉に力を7回に三上の一打で勝ち越し3対2で勝利できました。試合後沢山の人から祝福を受け私はそこで初めて勝ったんだという実感が湧きました。そして決勝戦では23年ぶりの甲子園出場のために全力を尽くしましたが小さなエラーから失点をし、また打撃では焦りからなかなか点が取れず敗れてしまいました。準優勝という結果で監督さんを甲子園につれて行くことができませんでした。ですが全校応援や沢山の方からの応援を受けて試合ができたことが一番の思い出です。本当に最高で最強のチームでした。ありがとうございます。



野球応援を通して

吹奏楽部

澤瀬佳梨奈(3A2R)

今年の野球応援は新型コロナウイルスの影響もあり初めての野球応援だったので、とても楽しみにしていました。部員全員が選手の方々の力になれるよう日々練習を重ねていき、本番が近づくと練習に力が入っていききました。

初戦は雨が降り天候が悪く、演奏もやり遂げることができたとはいえないものでした。反省点がたくさんあり次の試合ではより良い演奏をし、応援を届けることができるよう一人一人が努力を重ね続けました。試合を重ねるにつれ応援に力が入りました。特に決勝戦では部員全員が選手の方々の力となるよう同じ気持ちで演奏することができたのではないかと思います。

最後に、初めての野球応援はひと試合ごとに感動し思い出になりました。後輩達には来年の野球応援に向け日々の練習に取り組みしてほしいと思います。決勝戦まで連れて行って下さった選手の方々に、本当にありがとうございます。

チアダンス部

深井星比愛(3N2)

今年度は、新型コロナウイルスの影響で中止となっていた野球応援に行くことが出来ました。1年生の頃から行きたいと思っていたので、3年生の代で行くことが出来て良かったです。振り付けや覚えることが多く、練習期間が短かったため、ハードなスケジュールにはなりましたが、とてもやりがいを感じました。また、悪天候によって試合



が延期になる日が多く、1番大変だったのは選手達だったと思います。が、いつでもかっこいいプレーを見せてくださって、凄かったです。応援が出来て良かったと思います。結果は準優勝で、甲子園に行くことは出来なかったけど、決勝戦という試合で応援をさせてもらったことがとても嬉しかったです。

来年度は、今年より新型コロナウイルスが緩和されていると思うので、チア部にはもっと中央野球部を盛り上げられる応援をして、野球部には優勝目指して頑張ってもらいたいと思います。





ることでよい刺激となりました。男女とも更なる活躍を期待して

ます。(顧問/梅木翔太)

【ハンドボール部】

●県秋季大会 ベスト8

盛岡中央42-19久慈盛岡3-17紫波 準々決勝 盛岡中央22-27盛岡一

●県新人大会 ベスト8

2回戦 盛岡中央21-17盛岡三 準々決勝 盛岡中央24-35花巻北

コロナの影響で、3年生は行くことができなかった県外宿泊遠征を久しぶりに実施し、東北の上位チームと沢山の練習試合を行って大会に臨みましたが、新チームも2大会連続ベスト8という結果に終わりました。決定力不足や守備力・体格差など課題は明確になっています。個々が高い意識を持ち、日々の練習に必死に取り組み十二月末に開催される県選抜大会ではベスト4以上になれるよう努力していきたいと思えます。(顧問/杉田陽子)

【卓球部】

●第68回若手県高等学校新人卓球競技大会

男子学校対抗 2回戦敗退 男子ダブルス 長野響(222)・齋藤空河(1A1) 2回戦敗退 女子学校対抗 ベスト16 女子ダブルス ベスト16 渡邊康恵(2S2)・大崎利心(1A2) 女子シングルス 大崎利心(1A2) 2回戦敗退

3年生が引退し、新チームとして初の大会となる新人大会は、男女とも盛岡地区予選を通して県大会へ出場することができました。生徒たちで練習メニューを考え、話し合いを重ねてよりよい部活動を築いてきました。女子の学校対抗でベスト16に入賞しましたので、12月に宮古市で開催される東北選抜若手県予選会に向けて、練習に励んでまいります。保護者の皆様におかれましては、朝早くからの練習試合会場への送迎や活動の支援とご理解を頂きましてあり

がとうございませう。

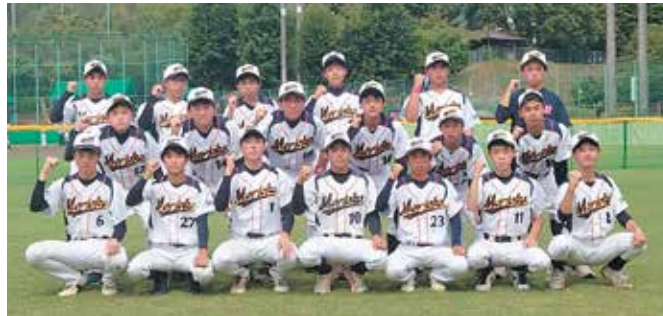
(顧問/吉田幸彦・佐々木美咲)

【男子ソフトボール部】

●全国高等学校総合体育大会男子ソフトボール競技

2回戦 盛岡中央0-7埼玉県立秩父農工科学(5回コールド) ●第17回東北高等学校男子ソフトボール選抜大会

盛岡中央22-3宮城県登米総合産業高等学校(5回コールド) 男子ソフトボール部では、新型コロナウイルスの影響で練習試合を行うのが難しい状況ではありましたが、数少ない練習の機会や他校との試合の中で常に相手から学ぶことを意識しながら取り組んでまいりました。また、各個人のソフトボールの技術だけでなく、チームでプレーすることを意識しながら練習や試合に取り組んでいます。常に周りの方々への感謝を忘れず、日々精進していきたいと思えます。(顧問/田村純大)



【女子ソフトボール部】

高校総体後、第15回若手県高校女子ソフトボール大会に参加し

一関第一・大東高校合同チームに3対1で敗れる。 新1・2年生は部員9名とギリギリの人数であったが、新人戦当日には他の行事等で参加できず、盛岡中央高校として、初の合同チームとして、第69回高校新人大会に参加した。

合同チームは盛岡北高校、紫波総合高校を加えて12名で、優勝候補の強豪千厩高校と対戦し、51対0の大敗で敗れる。チームとして歴史の大敗をしたが、生徒たちはこの悔しさを忘れず、今まで以上に練習に取り組み始めた。

新人戦まで手伝うはずであった。S.Zの1年生2名をはじめ、必ずこの雪辱をするという意気込みで辛い練習に取り組んでいる。高校総体初のベスト8入りした3年生、技術、パワー等盛岡中央最強のメンバーから、最弱のチームに落ち込んだが、生徒たちは明るく毎日、厳しい練習に笑顔で取り組んでいる。 この冬、今まで以上に練習量、質などレベルアップして、来春にはリベンジします。(顧問/川手祐輔)

【バドミントン部】

●若手県高等学校新人大会バドミントン競技盛岡地区予選会

男子団体戦 1回戦 盛岡中央3-1盛岡北 2回戦 盛岡中央0-3盛岡第一 女子団体戦 1回戦 盛岡中央0-3不來方 ミントン大会 ●第62回若手県高等学校新人バドミントン大会

盛岡中央0-3一関第二 女子団体戦 2回戦 盛岡中央0-3水沢第一 1回戦 盛岡中央0-3水沢第一 バドミントン部は、県大会で1つでも多く勝利できるように、日々



の練習に励んでいます。初心者も多い部活動ですが、お互いに切磋琢磨しながら、目標達成に向けて取り組んでいます。

今回の新人戦では思うようなプレーができず悔しさが残る試合もありました。この悔しさを忘れず、来年の高総体では1つでも多くの勝利を収められるよう努力を積み重ねていきたいと思えます。(顧問/加藤 操)

高層林(5A1)8サッカーリーグ20RS 第3位 ●高層林(5A1)8サッカーリーグ20RS 優勝 ●高層林(5A1)8サッカーリーグ20RS 優勝 ●2022年度第101回全国高等学校サッカー選手権若手県大会

盛岡中央10-0若手高 3回戦 盛岡中央5-0盛岡第一 準々決勝 盛岡中央0-2花巻東高校

●2022年度第57回若手県高校新人サッカー大会

2回戦 盛岡中央36-0千厩・釜石商工合同 3回戦 盛岡中央対1-2専大北上

新型コロナウイルスによって制限はありましたが、今年は遠征を行うことができ、生徒が生き生きと練習に取り組んでいる姿をたくさん見ることができました。また、高総体と県選手権では、惜しくも優勝を逃してしまいましたが、反骨精神で今後さらなる成長をしていくことを期待しております。

部活動だけでなく、学習など学校生活全体で真剣に取り組む、周りへの感謝を忘れず、たくさんの人に応援されるチームに当るよう努めてまいります。本日に多くの方々に支えられ、感謝をしております。今後とも、よろしくお願いたします。(顧問/工藤 洸)

【陸上競技部】

●2022若手県陸上競技選手権大会

一部男子4x100mR 8位 紺野(2A2)・中館(2A2)・三澤(1A2)・久保(2Z1) 一部男子1500m 6位 千葉大門(3A1) ●第73回若手県民陸上競技大会

男子2部300mH 5位 紺野大翔(2A2) 男子3000m 6位 千葉大門(3A1) ●第73回若手県高等学校新人陸上競技大会

紺野大翔(2A2) 2時間31分43秒 ●2022若手県秋季陸上競技大会 男子1500m 3位 千葉大門(3A1) 部員は3年生の引退後、短距離(跳躍・投擲含む)ブロック12名と長距離ブロック4名の二つに分かれ、全国大会・東北大会出場、県大会入賞を目指し日々運動公園を中心に活動しています。 今年度はコロナ禍のなかでも感染予防対策を行い、有観客での大会もあり、練習の成果を発揮できるシーズンでした。部員数が減少している中ですが、新人戦では4x100mRにおいてB決勝(9位決定戦)に男女そろっての進出を果たすなどの頑張りを見せてくれました。また、長距離ブロックの駅伝では数年前は県内では強豪チームとして常に2位争いをし、東北大会出場を果たしていたのですが、単独チームでの出場ができず盛岡北高との合同チームで全国高校駅伝(県大会)に出場しました。本校生徒3名が主要区間を走り18チーム中12番目にゴールすることができました。 これら今年度の結果を踏まえ、来年度は部員不足を解消するとともにチーム力アップに努力し、一人でも多く全国大会・東北大会に出場出来るよう頑張りたいと思えます。(顧問/山田 智)

【ゴルフ部】

●第49回東北総合体育大会少年の部

優勝 菊池諒太郎(3A1)・佐藤佑斗(3B2)・後藤羽翼(2A2) (国民体育大会出場) ●第77回国民体育大会若手県選考会(女子の部) 優勝 中野舞子(1Z4R) (国民体育大会出場)

●第27回東北ジュニアゴルフ選手権大会出場 優勝 中野舞子(1Z4R) (国民体育大会出場) ●第27回東北ジュニアゴルフ選手権大会出場 優勝 中野舞子(1Z4R) (国民体育大会出場) ●第27回東北ジュニアゴルフ選手権大会出場 優勝 中野舞子(1Z4R) (国民体育大会出場) ●第27回東北ジュニアゴルフ選手権大会出場 優勝 中野舞子(1Z4R) (国民体育大会出場)

●PGAジュニアゴルフ選手権太平洋クラブカップ  
男子の部 菊池諒太郎(3A1)・中野舞子(1Z4R) 出場  
●令和4年度全国高等学校ゴルフ選手権秋季東北大会  
男子の部11位 後藤 羽翼(2A2)・女子の部5位 中野舞子(1Z4R) (全国大会出場)

今年度もゴルフ部の生徒は各種大会で好成績を残しました。東北総合体育大会少年の部に本校の生徒3名が県代表として出場し、県勢初となる優勝を成し遂げると共に、女子の部でも県国体予選会で1位となり4名が国民体育(栃木県)大会に出場しました。また、日本ジュニアゴルフ選手権・全国高校選抜チャレンジマッチプレー選手権・PGAジュニアゴルフ選手権太平洋クラブカップにも出場を果たしました。なお、1Z4R中野舞子が来春3月兵庫県三木市で開催される全国高等学校ゴルフ選手権春季大会等の、出場権を獲得しています。少人数ではありますが、岩手県と連携し今後も練習に励みたいと思います。  
(顧問/高橋 亨)

【少林寺拳法部】  
少林寺拳法部は3年生の男子が卒業して、2年生の女子5名と1年生の男子1名で毎週火・水曜日(剣道場)で活動しています。少林寺拳法は、中国拳法の1つと勘違いされがちですが、日本で生まれた武術の1つです。名前は拳法ですが、投げ技も関節技も急所打ちも習い、何でもありを想定した武術です。今年度は2年ぶりに県大会が対面方式で実施され、参加した全員が各階級の最優秀賞を受賞することができました。少林寺拳法は、非常に理にかなった護身の技術が多くあり、とても実戦的ですが、に使えるものを多く習います。しかし、いわゆる「実戦」はないので、怪我をすることはほとんどありません。興味のある子はぜひ、まずは見学から始めてみてください。  
(顧問/中村 祐史)



【芸術部】  
●第45回ふれあい書道展  
特選 佐藤彰真(2SZ1)  
●第46回芸書道全国展  
特選 新谷三汰(2Z1)  
●第46回全国学生書道展  
全書会会長賞 新谷三汰(2Z1)  
●第45回岩手県高等学校総合文化祭書道部門 第2種漢字  
秀作賞 新谷三汰(2Z1)  
●第45回岩手県高等学校総合文化祭美術工芸展 絵画部門  
特賞 全国展推薦  
入選 下川原陽由(1A2)  
工藤心愛(2Z1)  
小豆嶋陽葵(1SZ1)

芸術部では絵画、漫画、書道の部門ごとに、昇龍祭や高総文祭に向けた作品制作を行っていきます。絵画はそれぞれの興味に応じ

て水彩、アクリル、油彩、ペン画などの技法を用い、コーチの先生のご指導のもと、技能を向上させながら作品づくりに取り組んでいます。書道では、昇龍祭で書道パフォーマンスを披露しました。高総文祭の絵画部門で特賞を受賞した下河原さんの作品は、来年度、鹿兒島で行われる全国高等学校総合文化祭へ出品されることとなります。  
(顧問/佐藤 律子)

【軽音楽部】  
●全国高等学校軽音楽部対抗バンドバトル2022夏  
第4位プレイヤーズ賞ベース部門  
審査員特別賞個人部門 VOGT  
小西倫加(3SZ1)  
●第2回全国高校軽音楽部大会  
We are SNEAKER AGES 第4回東北地区動画予選会  
優秀校賞  
●第2回全国高校軽音楽部大会  
We are SNEAKER AGES 第4



回東北地区グランプリ大会  
出場  
●第45回岩手県高等学校総合文化祭第22回軽音楽発表会  
優良賞

【囲碁将棋部】  
●第36回東北地区高等学校囲碁選手権大会  
県対抗男子団体戦岩手チーム  
準優勝 渡邊和貴(1SZ1)  
岩手県大将  
同大将戦  
2位 渡邊和貴(1SZ1)

囲碁・将棋部です。囲碁部門は、8月1日～8月5日まで全国大会に1SZ1渡邊和貴君が参加してまいりました。8月1・2日の全国高総文祭囲碁部門では、県対抗の団体戦の主将として他の6県と対戦し、主将戦6戦全勝と岩手チームを牽引しました。チーム全体では3勝3敗で26位でしたが、他県のトップ選手にも負けない実力を発揮してくれました。来年度の全国高総文祭は鹿兒島で開催されるようなので、そちらにも出場できるように、この1年棋力アップに励んでほしいと思います。8月3・4・5日の文部科学大臣杯全国囲碁選手権大会は、個人戦男子の部に参加しました。各県代表2名、開催県東京都は4名合計96名が6人ずつの16グループに分かれて一次リーグを戦いました。3戦全勝でない予選通過が難しい中で、2勝1敗と健闘しましたが、惜しくも予選敗退となりました。今回の全国大会では、9戦中8勝1敗と全国の中でも、戦っていきたくて手ごたえを感じたようです。まだまだ1年生で若いので、棋力アップの可能性はおおいにあると思いますので、今後も努力して頑張ってくださいと願っています。  
(顧問/村上 成也)

【吹奏楽部】  
吹奏楽部は高校生7名・中学生9名で活動しています。今年度は3年ぶりに野球応援に参加し、決勝まで応援することができ大変感謝しています。今年度は人数が少ない



【家庭部】  
家庭部は毎週月曜日の放課後に「クッキング」を中心に活動しています。ワッフル、クレープ、オムライス、ピザ等、種類も豊富。今年度は部員も増え(男子も2名入り)、和気藹々と楽しく活動しています。7月の昇龍祭では、新メニューの「りんごたつぷりドライカレー」の模擬店を出店。大好評でした。夏休み期間には東亜和裁「浴衣作り体験」に参加し、和裁を体験しました。8月には3年ぶりに開催された盛岡さんさ出演するさんさ同好会の生徒・教員としての役割を担当(男子)しました。週末には子ども食堂や岩手県国際交流協会のボランティアにも参加します。子どもたちと交流を図りたい、今年度の新しい取り組みとして、インクル子ども食堂のイベントを企画し、令和5年2月に「パ

大会等への参加は断念しましたが、大会応援や昇龍祭、オープンスクールなどへの活動を通して、演奏をすることで楽しさや素晴らしさを改めて実感することができました。また、多くの方からの声援や励ましもいただき部員一同、勇気をいただきました。今後は人数を増やし、基礎練習や全体練習などを通して、感動や元気を与えることのできる「CHUOサウンド」をさらに追求していきます!  
(顧問/中森 淳)

【ゲートボール】  
●第27回全国ジュニアゲートボール大会ジュニア1部女子クラス  
優勝  
参加者:堀間葉月(2Z1)・宮川未徠(1Z2)  
所属:木曜クラブPH  
●2022年度岩手県ジュニアゲートボール大会ジュニア1部女子クラス 優勝  
参加者:堀間葉月(2Z1)・高原悠太郎(2Z1)・伊藤新大(1Z2)  
所属:木曜クラブPH  
●第74回盛岡市市民体育大会第36回ゲートボール競技 第3位  
参加者:堀間葉月(2Z1)・宮川未徠(1Z2)  
所属:木曜クラブPH  
●第29回東北地域ジュニアゲートボール大会 優勝  
参加者:堀間葉月(2Z1)・齋藤直生(2Z1)・高原悠太郎(2Z1)  
所属:木曜クラブPH

【大極拳】  
●第77回国民体育大会 武術太極拳競技 少年男子 国際第一套路長拳  
第9位 風祭奏(3A1R)

【馬術】  
●第59回しもつけ乗馬大会  
第6競技 MD1-2 第15位  
第7競技 MC1-2 第13位  
第13競技 MDグランプリ 第5位  
船橋友希那(2Z1)

# グローバル教育

国際Rコース

## ●エンパワーメントプログラム

8月1日からの5日間の日程で開催され、日本の一流大学へ留学している海外の大学生・大学院生をグループリーダーとして招き、ディスカッションを通して社会への関心を喚起するとともに、プレゼンを何度も行うことで表現力・スピーキング力を醸成するプログラムです。もちろん、このプログラムにおける公用語は英語であり、日本語は存在しません。加えて、グループリーダーのほとんどは英語を後から習得しており、世界を視野に入れている生徒たちにとっては、実践的で有意義な英会話体験の機会となりました。

1月には、ニュージーランド、カナダ、オーストラリアへの留学を控えている生徒もおります。留学直前プログラムとして、東京のTGGにおいて体験型英語学習を予定しております。英語だけの環境でコミュニケーション力を高め、「英語で学ぶ」良い機会となることを願います。

(国際Rコース長/石川圭一郎)

## エンパワーメントプログラムを振り返って

昌山 恵太(3A2R)

このプログラムは得るもの一つ一つがとても大きく、Rコースにとって有意義な夏休みを過ごすことができたと思います。特に、普段関わる機会が少ない国の方々と交流ができたことは本当に良い経験になりました。

今回このプログラムに携わっていただいたグループリーダーの方々は、いわゆる発展途上国や新興国と呼ばれる国の出身の方が多く、交流を経てまた新しい文化に触れることができました。それと同時に、日本ではあまり耳にしない貧困問題や水質の問題、教育の環境問題などをSDGsと関連させて学習し、あらゆる観点から世界を見ることで、より国際情勢に深い興味を持つようになりました。

コミュニケーション能力においても、昨年、一昨年の自分に比べて英語力が上がっていることを体感し、英語で会話することの楽しさを再確認する機会にもなりました。

今後留学に行ったり、進路の選択肢として日本を出る人が多い中でこのようなプログラムに参加できたことは光栄なことであり、これからの経験と繋げて海外や自国に対する視野を広げ、将来各々の夢を体現させられるよう励み続けたいと思います。



特進選抜SNコース(2SN)

## ●体験型英語研修(ブリティッシュヒルズ)

10月15日から17日までの2泊3日間で福島県天栄村のブリティッシュヒルズという施設で体験型英語学習を実施しました。生徒たちはたどたどしいながらも英語を使い教員とコミュニケーションを図っていました。コロナ禍で留学する機会がなくなってしまう生徒たちにとっては、よい機会になったのではないかと思います。

(2SN担任/野寄 裕)



## ～PTA活動～

### ■PTA研修旅行

コロナ禍で2年実施できずでしたが、今年度は夏の県内大学見学会に引き続き、秋季PTA県外研修旅行を実施いたしました。宮城で実施された今回の研修旅行は、PTA研修委員の皆様のご意見もあり、初の試みとして公立大学の「宮城大学」と私立大学の「東北福祉大学」の2コース選択制で実施いたしました。いまだ完全にコロナ感染症が収束していない状況もあり、参加人数こそ少なめではありましたが、それぞれのコースにおいて有意義な大学見学会となりました。2コースに分かれたグループはお食事で合流となり、食事に舌鼓を打っていました。今後は観光の要素をさらに組み込みたいと考えております。ぜひ、PTA会員同士の親睦を深める機会にもなりますので、ぜひ参加をご検討ください。(石川圭一郎)

### ■昇龍祭

今年も中高PTA昇龍祭委員の方々にお手伝いいただき、PTA模擬店を出店しました。例年通り、玉こんにやく・パパヘライイス・フランクフルト・フルーツサイダーの4品を販売しました。多くの保護者来校を予想し、沢山仕入れて準備しました。当日は例年をはるかに上回る数を販売し、過去最高金額3800円を売り上げました。売り上げは生徒会とPTAに分けて寄付しました。

昇龍祭委員の皆様には、朝早くから終日お手伝いいただき、感謝申し上げます。(杉田 陽子)

# 齋藤響介投手

## オリックスバファローズからドラフト3位指名!!

10月20日に行われた「プロ野球新人選手選択会議(ドラフト会議)」にて齋藤響介投手が、オリックスバファローズより3位で指名を受けました。本校からは3人目のプロ野球選手の誕生となります。

齋藤投手は、記者会見の中で「小さい頃からプロ野球選手になりたいという夢が叶って嬉しい。しっかり体を作って1軍で活躍できる選手になりたい。目標は2桁勝利」と夢を語りました。「一番対戦したい選手は楽天の銀次選手。高校の先輩なので対戦してみたい」と本校OBの銀次選手との対戦を心待ちにしていました。後輩には「日々の練習やトレーニングを大切にしていってほしい」と伝え「ここまで育ててくれた両親、支えてくれた野球部の先生方や仲間へ感謝したい」と語りました。齋藤投手のプロでの活躍を期待しています!!



齋藤響介(3B2)

今回2022年ドラフト会議でオリックスバファローズに指名していただきました。私は小さい頃からプロ野球選手になることが夢で練習を頑張ってきました。しかし、二年生の夏、三年生の春、自分のミスなどで負けてしまい、悔しい気持ちでいっぱいでした。最後の夏に向けて、毎日の練習をいつも以上に頑張り、最後の夏は、人生の中で一番のピッチングができたと思っております。これからは、高校生活での生活をいかして、プロ1年目では、体づくりや練習を他の人より頑張り、2年目には、1軍で活躍し、自分の目標である先発選手になり、二桁勝利ができるようなピッチャーになりたいと思います。応援よろしくをお願いします。



# さんさ同好会

## 3年ぶりに盛岡さんさ踊りパレード参加

令和4年8月第45回盛岡さんさ踊りパレードが中央通りを主会場として行われました。コロナ禍のため過去2年間中止が続いており、3年振りの開催です。本校さんさ同好会にとっても待ちに待った開催であり、3年生にとっては最初で最後のさんさパレード出場になりました。

コロナ禍前には100名を超える部員がいて「さんさ甲子園優勝」を目標に活動を行い、二度の優勝も果たしました。マスクにも度々取り上げられるなど、勢いのある同好会だったと思います。今年度は前回パレードに出場した最後の年代である3年生が卒業し、パレード出場未経験者がほとんどを占める中、手探りで活動スタートでした。またこの2年で部員数は半減しましたが、当時の先輩たちの熱い思いを受け継いだ2、3年生を中心に4月から練習に励んできました。8月1日(月)パレード当日は日中小雨がパラつき高温多湿の悪条件でしたが、新調したピンクと空色の浴衣に身を包んだ生徒たちは、笑顔と躍動感にあふれる踊りでゴールまで全員で踊り

切ることができました。沿道を埋め尽くした多くの観客に元気をお届けすることができたのではないのでしょうか。

ゼロからのスタートでどうなるかと不安に思うこともありました。基本に忠実な技術を指導してくださった伝統さんさ踊り団体の「清流」さんや、パレード当日にサポートしていただいた生徒会役員の生徒たち、先生方、そして一緒に出場した附属中学校の生徒たち等々、多くの方々に支えられていることを再認識した今年の活動でした。これまで関わってくださった全ての人々に感謝申し上げますとともに、来年こそ復活するであろう「さんさ甲子園」において、現在他校に預けている優勝旗を奪還すべく1、2年生には引き続き頑張ってもらいたいと思います。

(顧問/岩崎聡史)



今年は3年ぶりにさんさパレードが行われました。さんさ甲子園優勝旗奪還を目標のもと、練習に励みました。

新入部員の9割が初心者でしたが2・3年生は踊りの正確性やきめ細やかな振りを重視し指導を行いました。夏休み中も、より本番に近い気温で練習できるよう午後からという炎天下の中、行いました。

8月1日パレード当日は3年ぶりの開催ということで多くの観客の方が詰めかけました。私たち3年生は最初で最後でしたが今までの練習のすべてを笑顔で出し切ることができました。たった30分間でしたが最高の思い出となりました。

コロナ対策のためさんさ甲子園は行われませんでした。部長としての団体にも負けない踊りであったことを誇りに思っています。お忙しい中、指導にあたってくださった岩崎先生、恵先生、応援してくださった皆様には感謝しかありません。ありがとうございました。

菊池桃香(3Z1)

## 編集後記

今年は本校にとって喜ばしい出来事が続く1年となりました。小林陵侑選手の北京五輪金メダル獲得から始まり、野球部が選手権岩手大会での準優勝、齋藤投手のドラフト指名。PTA活動としては、3年ぶりに県内外への研修旅行を実施することができました。まだコロナ禍で活動が制限されていることもありますが、少しずつ以前の日常に戻りつつあります。生徒達にとっても「中央高校に入って良かった」「私たちも頑張ろう」と心から強く思ってくれることを願っています。今年度も多くの会報委員の方々のご協力により会報を作成することができました。ありがとうございました。